

年頭のごあいさつ

黒潮町長 松本敏郎



明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は、前年に引き続き新型コロナウイルスとの闘いの年となりました。全世界でまだまだ困難な状況が続いているところですが、段々と感染状況の落ち着きも見え始めています。町としても、ワクチン接種に全力で取り組んできたところです。しかし、時間の経過に伴い、予防効果が徐々に低下し新たな変異株への懸念もあることから、3回目のワクチン接種の準備を進めております。迅速な対応ができる

よう努めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

コロナ禍において、新たな町の話題としては、役場(本庁舎)西側に桜野団地という新たな行政区が誕生したことです。

桜野団地は、構造上の問題で耐震改修ができなかった公営住宅「万行第1・第2・第3団地」の方などが移転し、全22戸の地区となります。

一方で、昨年の経済を振り返ってみれば、観光業や飲食業、宿泊業にとっては2年連続の苦難の年でした。水産業では、久しぶりにカツオの水揚げ量が増加したものの、コロナ禍で魚価の低迷が続く、モジヤコ漁においては大不漁で漁業者にとっても厳しい一年でした。

今年度は、新型コロナウイルスの感染予防と合わせて、アフターコロナの時代を見据えた経済対策の推進を図らなければなりません。国の過去最大の財政支出といわれる「新型コロナウイルスの長期化などに対応する

新たな経済対策」をしつかりと活用し、町の活性化対策に結び付けていきたいと思っております。

また、四国横断自動車道「佐賀大方道路」「大方四十道路」の工事も動きはじめております。この高規格道路と地域をうまく調和させた町づくりが、黒潮町の未来を大きく左右すると考えています。

そして、時代は大きな変革期を迎えています。近年巨大化する台風や線状降水帯による集中豪雨などの気候変動は、今や世界の深刻な問題となり、昨年8月にIPCC(気候変動に関する政府間パネル)は「人間活動によって地球温暖化が進んでいることについて、疑う余地はない」と公表いたしました。日本では「改正地球温暖化対策推進法」が成立し、国内においても脱二酸化炭素に向けた具体的な取組が始まっています。私たちにも、カーボンニュートラル(脱二酸化炭素)などのSDGs(持続可能な開発目標)社会の実現をめざして、「グローバル(世

界規模)に考え、ローカル(地域密着)に行動する」姿勢が求められています。

また、デジタルを利用して人々の生活をより良いものに変革するDX(デジタルトランスフォーメーション)など、「新しい時代」を敏感にとらえたまちづくりも意識しなければなりません。

「南海トラフ地震にも、新型コロナウイルスにも、過疎にも負けない丈夫な町づくり」を住民の皆様とともに着実に進めてまいりたいと思っております。

住民の皆様におかれましては寒さ厳しい折、くれぐれもご自愛いただき、町政発展のためより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

今年一年が皆様にとりまして平穏で幸せな一年となりますことをご祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

